

2021年7-9月期（2次速報）GDP予測について

フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一
 エコノミスト 前田 和孝

1. 2021年7-9月期実質GDP成長率（2次速報）は小幅上方修正を予想

内閣府から12月8日に発表予定の2021年7-9月期実質GDP成長率（2次速報）は、前期比▲0.7%（年率換算：▲2.6%）と、1次速報から小幅上方修正されると予想する。

本日発表された7-9月期の法人企業統計の設備投資（除くソフトウェア）は前年比+2.2%と、前期から伸びが鈍化した。加えて、別枠で集計される金融業・保険業の設備投資が同▲16.9%と大幅マイナスとなり、1次速報時点での設備投資の需要側推計値を下回ったとみられる。ただ、今回の2次速報では、2020年度の年次推計結果のほか、推計方法の見直しが反映される。これが設備投資の押し上げに寄与したとみられ、民間設備投資は1次速報の前期比▲3.8%から同▲3.4%へ上方修正されると予想する。公的固定資本形成は、9月の建設総合統計（公共）の結果を受けて、1次速報の同▲1.5%から同▲2.5%へ下方修正されると見込む。民間在庫投資の寄与度は、1次速報の+0.3%ポイントから変わらないと予想する。

2. 10-12月期の実質GDPは回復の見込み

10-12月期の実質GDPは、個人消費を中心としたペントアップディマンド（繰越需要）の顕在化に伴い、回復が予想される。11月19日に閣議決定された政府の新たな経済対策も個人消費の下支えとなろう。半導体不足の影響はまだ残るが、最悪期は過ぎた可能性が高まっており、設備投資や輸出も持ち直すと見込まれる。

ただ、オミクロン株の感染拡大やエネルギー価格の上昇が今後の日本景気の下押し要因となる可能性はある。特に、オミクロン株は日本のみならず、世界景気全体への新たな脅威となっている。現段階では、過度な悲観は禁物で、景気失速シナリオが現実味を増しているといった状況ではないが、感染状況次第では、景気回復ペースが従来の予想を下回る可能性も否定できない。

実質GDP成長率予測

(前期比：%)	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9 (1次速報)	→予測	
						21/9 (2次速報)	寄与度
実質GDP	5.4	2.8	-1.1	0.4	-0.8	-0.7	-
前期比年率	23.5	11.8	-4.1	1.5	-3.0	-2.6	-
民間最終消費支出	5.3	2.2	-1.3	0.9	-1.1	-1.1	-0.6
民間住宅投資	-5.7	-0.0	1.1	2.0	-2.6	-2.6	-0.1
民間設備投資	-2.2	4.3	-1.0	2.2	-3.8	-3.4	-0.5
政府最終消費支出	2.8	1.9	-1.7	1.1	1.1	1.1	0.2
公的固定資本形成	1.3	0.7	-1.4	-2.1	-1.5	-2.5	-0.1
民間在庫品増加(寄与度)	-0.2	-0.5	0.4	-0.3	0.3	-	0.3
純輸出(寄与度)	2.7	1.0	-0.2	-0.3	0.1	-	0.1
財貨・サービスの輸出	7.4	11.7	2.4	3.2	-2.1	-2.1	-0.4
財貨・サービスの輸入	-8.2	4.8	4.0	5.3	-2.7	-2.7	0.5
内需(寄与度)	2.8	1.8	-0.8	0.7	-0.9	-	-0.8
名目GDP	5.5	2.3	-1.1	-0.2	-0.6	-0.6	-
前期比年率	23.9	9.7	-4.4	-1.0	-2.5	-2.2	-
GDPデフレーター(前年同期比)	1.1	0.1	-0.2	-1.1	-1.1	-1.1	-

(出所) 内閣府より明治安田総研作成

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411